

子どもの豊かな表現活動を求めて（１）

多 保 田 治 江

はじめに

1886年（明治19）10月11日アメリカ長老教会宣教師ミス・ポーター（Francina E. Porter）によって、金沢に、私立英和幼稚園が開設された。その後、1912年（明治45）北陸女学校付属幼稚園となり、現在北陸学院短期大学付属第一幼稚園となっている。日本で現存する最古のキリスト教幼稚園で創立104周年を迎える。テネシー州メリーヴィル（Maryville college）で教育学を学んだミス・ポーターはユーモアと機知のセンスに富んでいて朝夕ラッパを吹いて道を行く豆腐屋を見て「豆腐 man」というリズム遊びを考案し、園児たちに独創的な保育を行った。毎朝夕二回耳にするラッパの音色はどの子どもにとっても、日常生活に直結した身近なもので興味深く一度は吹いてみたい「あこがれ」の楽器だったのではなかろうか。1878年（明治11）東京女子師範学校が作成した「保育唱歌」のメロディーの多くが宮内省式部寮雅楽課に依頼したために雅楽調であった。また、1887年（明治20）刊行された「幼稚園唱歌集」（音楽取調掛編）の歌詞が文語体であり子どもにとって難解なものであった。このような時代に、ミス・ポーターの保育は子どもの興味や欲求に根ざした表現活動を試みていたように思われる。

ところで、1989年（平成1）幼稚園教育要領が25年ぶりに改訂された。環境を通して行うことを前提に、子どもの主体性・遊び・個性を重視している。新幼稚園教育要領総則の幼稚園教育の目標の中に「多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性を豊かにするようにすること」とあり、感性と表現に関する領域「表現」が誕生した。豊かな感性や創造性は、子どもが生活の中で心を動かす出来事に出会い、自分の感情や経験を豊かに表現する機会を持つことによって高められ、さらに、様々な表現活動を子どもなりに獲得し楽しんでいけるような環境の中で育まれていくものである。保育者は、一人一人の子どもの表現活動の中から子どもの世界を理解し適切な援助を行うことが大切である。



音楽と動きによる表現活動

旧幼稚園教育要領の保育内容は六領域「健康」「自然」「社会」「言語」「音楽リズム」「絵画製作」で編成されていた。今回幼稚園教育要領の改訂によって五領域、すなわち「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」となった。

本学では、この改訂に伴い保育内容に関する科目が次のようになった。

保育内容研究Ⅰ（子どもの健康）

保育内容研究Ⅱ（子どもと環境）

保育内容研究Ⅲ（子どもと言葉）

保育内容研究Ⅳ（子どもの表現活動）

保育内容研究Ⅱは「人とのかかわり」と「自然や身近な環境とのかかわり」が講義内容の二本柱で「人間関係」と「環境」の二つの領域を含んでいる。

音楽と動きによる表現活動は保育内容研究Ⅳで扱う。

子どもに豊かな感性や表現を育てるには様々な環境が影響を与える。自然環境・社会環境・家庭環境など子どもを取りまく環境の中で保育者は重要な役割を果たしている。子どもの感情や経験を豊かに表現する機会を作るには、保育者自らの豊かな感性や表現力が必要である。心を動かす出来事や音楽による心のゆさぶりに対して受け止め、多様な表現ができる保育者であって欲しいと私は願うものである。

ところで、音楽と動きによる表現活動を小学校から高等学校までに体験したことのある学生は本年度の場合全体の3分の1であった。中学校や高等学校の体育における「創作ダンス」で体験している。これは例年類似した傾向である。

そこで、「動き」に関して知ることから音楽と動きによる表現活動を始めている。

○動きの3要素として、時間・空間・エネルギーが重要である。この三要素は相互に関係する。

		漸次的変化	急激な変化
時間 Time (Tempo)	音楽の速さのニュアンス 動きに要する長さ	accelerando ritarlando	Lento. Andante Allegro など (速度記号によるもの)
空間 Space	動きの空間のニュアンス 動きに必要な空間		
エネルギー Energy (Dynamic)	音楽の強弱のニュアンス 動く時に使われるエネルギー	crescendo decrescendo	P. mp. f など (強弱に関する記号によるもの) fz. fp. pf

ニュアンスとは度合 (nuance) のことである

例えば、

時間 [速い] → 空間 [小さい] → エネルギー [弱い]

時間 [遅い] → 空間 [大きい] → エネルギー [強い]

時間・空間・エネルギーについて次のように体験する。



○速い・中ぐらい・遅いの三種類のテンポをクラッピングやステップすることによって空間やエネルギーのニュアンスをつかむ。

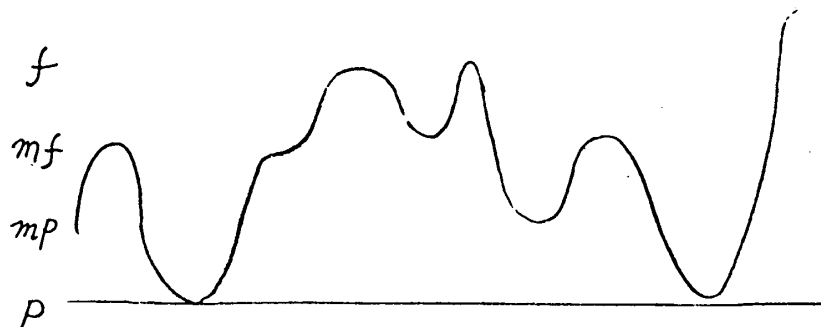
○シンバルとフィンガーシンバルの音色を聞き、フォルテとピアノの聴覚イメージを持つ。各学生の発想でエネルギーの急激な変化フォルテ・ピアノを身体全体で表現する。

二人組になり出てきた表現を模倣する。

○エネルギーの漸次的変化クレッシェンド \langle デクレッシェンド \rangle をクラッピングや身体全体で表現する。各グループでこの漸次的変化を図で表わし、異なるグループがクラッピングや身体で表現する。

○時間の漸次的変化アツチェレランド・リタルダンドをクラッピングやステップで表現する。

例



この動きの3要素を踏まえて、場所を移動する動きとその場で行う動きを単独で、あるいは

組み合わせて体験する。

〈場所を移動する動き〉

1. 歩く
2. 走る
3. 跳ぶ（片足・両足）
4. ギャロップ
5. スキップ
6. すべる
7. 転がる
8. 回る
9. 這う

〈その場所で行う動き〉

1. 揺れる
2. 伸びる
3. 縮む
4. 曲げる
5. ねじる

○言葉と音楽と動きが一体となっている遊びうたやわらべうたを歌う。

○幼児期に行った身体を用いた遊びについて話し合う。

○様々な身体表現を楽器（タンバリン・カスタネット・シンバル・ウッドブロックなど）で表現する。

○音楽を聴いて感じたイメージを話し合う。身体で表現する。

○子どもの様々な表現活動にマッチした曲が作曲できるようにする。やがて子どもの表現内容に応じて即興的にピアノが演奏できるようになることがねらいである。

その過程は次の通りである。

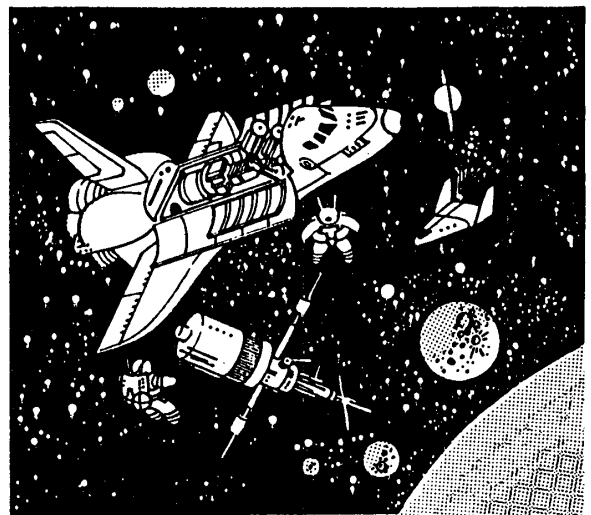
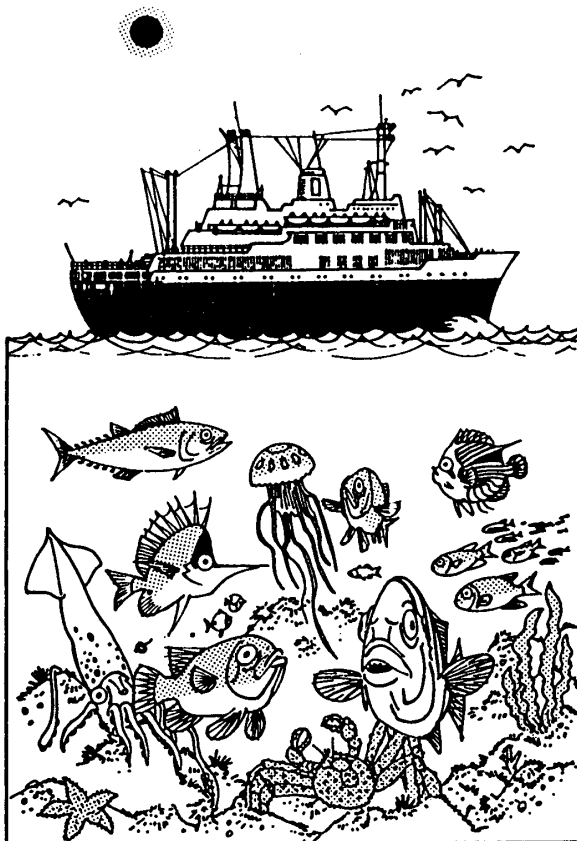
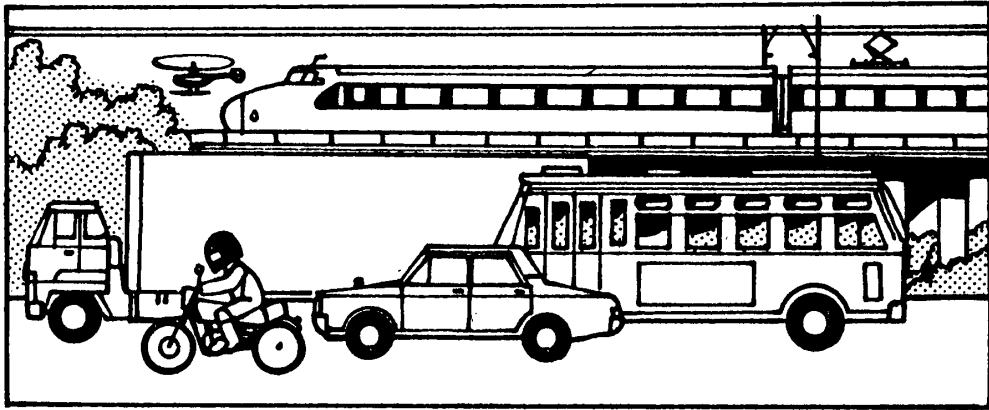
(1) 主要三和音 I - IV - V について

(2) 和音の構成音のみを用いてメロディーを作曲、和音進行は I - I - IV - V - I - IV - V - I である。

(3) いろいろなスタイルの伴奏のつけ方について

(4) 「歩く」や「走る」にマッチしたピアノ曲を伴奏付で作曲する。和音進行は I - I - IV - V - I - IV - V - I である。

- (5) 課題の絵を見て、視覚イメージを膨らませ感じたままを作曲する^{註1}。



〔作品 資料1〕

ピアノはピアノフォルテ（Pianoforte）の略称で有鍵打弦楽器である。下2点いから5点ハまで7 1/4 オクターブ、88鍵盤あり音域が広い。また、和声楽器と旋律楽器の機能の二面を合わせ持つ、ピアノフォルテと言われるように音のダイナミックがつけやすく、奏法もトーンクラスター（tone cluster）・グリッサンドと多様である。さらにペダルの使用は音の音楽性を高

多 保 田 治 江

める。このようなピアノを表現活動に用いることは、基本的な動きばかりではなく、創造的表現活動の刺激としてもふさわしいと思われる。

○表現活動に関するビデオや本学付属幼稚園参観を行い、多方面から幼児を観察する目を養う。

音楽と動きによる表現活動についてペインターとアストン（J. Paynter・P. Aston^{註2}）は、「動きのなかで行うことは、ほとんど全部音楽に還元することができる。異なった高さで動きをすれば異なった高さの音、動きの速さは音楽のテンポ、動き方によって音色・強弱関係・音楽の持続をおのずと決める」と述べている。単なるビートの把握にとどまらず、内在する音楽性を引き出し、育て、音楽に対する感受性と創造力を養うように音楽と動きによる表現活動を様々な体験を通して行っている。

この過程を終了した学生の主な感想は次である。

- 音楽と動きによる表現活動が子どもにとって楽しく大切であると感じた。
- 身体を動かすことが最初恥ずかしく消極的な表現であったがだんだんリラックスし楽しくなった。
- 保育者に近づいているように思える。
- 音楽のイメージを身体で表現でき楽しかった。
- ピアノ一台でこんなに表現できるとは思わなかった。
- 様々な体験を通して表現力が養えたように思う。
- 友達から新しい表現法を知った。
- 子どもに戻ったような新鮮な気分であった。
- 表現活動のための曲作りが大変であった。

一人一人の学生が自分の表現力を見つめ授業の体験を生かして、豊かな感性や創造力を育てるために子どもとともに探求していくようにと願うものである。

さて、本学では二年次に4月より約3ヶ月間教育実習を実施している。音楽と動きによる表現活動がどのように行われているが実習した学生への調査から断片的ではあるが探ってみたいと思う。

教育実習における音楽と動きによる表現活動の実態と考察
教育実習の形態

○実習幼稚園 13園

（本学付属幼稚園4、金沢市内キリスト教幼稚園9）

○実習期間

前期 1989年4月13日～5月31日

後期 1989年6月1日～7月12日

音楽と動きによる表現活動の名称は、活動内容は類似しているが、「リズム活動」と呼ぶ幼稚園が8箇所、「リズム」と呼ぶ幼稚園が5箇所であった。

1. 教育実習では、幼稚園の先生が保育する姿を見せていただいたり、実習生が責任を与えられ、保育の一部や半日あるいは終日実習する。表現活動時間は二十分以内で行われている(表1)。これは年齢や前期実習・後期実習を問わず同じ傾向であった。なお園児数の多いクラスでは、グループに分けて活動を実施しているので、活動時間を多く費やしている。そこで待機している子どもへの配慮も必要である。

表1 表現活動時間 [前期実習] [後期実習]

時 間 (分)	3		4		5		3		4		5	
	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実
	28	23	32	31	24	35	47	37	31	30	33	27
10分以内	4	6	2	3	6	1	16	6	11	5	5	3
～15分	9	10	11	10	9	12	14	18	10	10	10	9
～20分	11	7	15	15	5	16	11	11	9	10	12	6
～25分	0	0	1	1	1	3	1	0	0	0	1	3
30分以上	4	0	3	2	3	3	5	2	1	5	5	6
回 答 率	52	53	76	82	50	78	96	93	66	71	85	82

2. 表現活動を誘発するものは、次のとおりである(表2)。

圧倒的にピアノが使用されている。ピアノはオーディオ機器に比べ子どものテンポや表現に即座にマッチさせ促進することが可能であるので効果的である。しかしながらピアノを弾くことに集中してしまうとせつかくの子どもたちの様々な表現を見のがす危険性がある。

今回使用されていなかったが、子どもたちが作った手製の楽器の使用も表現意欲の活発化によいと思われる。また既製の楽器も音の出し方を探求する機会を作ることによって、音色や表現活動への興味を増加させられると思われる。一例として、普段幼稚園で使っているタンバリンより大きいタンバリンをバチで打つ機会を作った。「ポン」とそっと打つ子ども、力をため空間を一杯使って「ドーン」と打つ子ども、友達と同じ打ち方をして喜ぶ子どもなど、アンサンブルだけでは見ることのできない子どもの姿がそこにあった。

表2 表現活動の刺激となるもの

	3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実		3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実	
ピアノ	50	37	40	36	38	43	41	40	42	39	34	30
オーディオ 機器	1	3	1	1	10	2	6	0	4	2	5	2
タンバリン	2	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	1

ボンゴ1	↑	↑	↑						↑			
うた1・木琴1												
ことばかけ1												
併用ボンゴ1・クラッピング1												
音階ドラム1												
ピアノと併用したもの												
メトロノーム1												
クラッピング1												
ヘビのおもちゃ1												
併用タンバリン1												
エッグマラカス1・カウベル2												
ハンドベル1・ピアニカ1												
ツリーチャイム1												
フィンガーシンバル1												

	3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実		3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実	
オーディオ 機器	4	1	1		2	4	2	2		1	6	4
タンバリン	3		2	5	4	7	1	2	8	3	2	9
太鼓	1	2			1	1						
テンブル ブロック	1	1			1							
ウッド ブロック		1			1							
うた			2		1							1
トライ アングル					1							1
ホイッスル			1						1			

タンバリン	46
オーディオ機器	27
太鼓	5
うた	4
テンブルブロック	3
ウッドブロック	2
トライアングル	2
ホイッスル	2
カウベル	2
音階ドラム	1
メトロノーム	1
エッグマラカス	1
ハンドベル	1
ピアニカ	1
ツリーチャイム	1
フィンガーシンバル	1
クラッピング	1

3. 表現活動の種類は、場所を移動する動き・その場で行う動き・模倣表現・創造的表現に大きく分けられる。今回の調査（表現3）では、調査期間が4月から7月という時期でもあって場所を移動する動きや模倣表現が多かった。季節感が感じられるかえる・ちょうちょう・かたつむり・あり・はち・みつばち・おたまじゃくしなど子どもにとって身近な存在で観察する機会の多いものもある。また、使用頻度の高いうさぎやくまはぬいぐるみのキャラクターとしてもよく使われている子どもたちのお気に入りの動物である。これらが単に跳んだり、ゆっくり歩くような場所を移動する動きにとどまらないように心がけたい。

子どもの豊かな表現活動を求めて (1)

表3 表現活動の種類

	3		4		5		3		4		5	
	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実	幼	実
歩く	40	37	22	29	20	32	34	37	32	30	10	16
走る	36	33	27	29	25	33	33	33	31	33	27	20
跳び	21	26	13	14	19	14	18	20	21	16	21	16
ギャロップ スキップ	17	14	29	28	31	29	17	10	31	26	22	21
すべる					2		2			1	5	3
転がる						1				1		1
回る		1		1			1					
揺れる	4	5	7	7	2	9	5	10	4	9	3	4
動物・魚	25	24	15	25	6	25	23	29	11	26	4	11
乗物 遊園地含む 植物	20	4	8	12	5	6	19	14	4	6	5	11
	2	3	6	1	9	4	3	1			2	1
眠る、休息	2	3	1	4		1		6		1		1
床・体を叩く、足踏 ダンス	3	3			1	1	1		1			1
	1	3		1	6	2	3	2	3			2
遊びうた わらべうた			2		2				1			
自然界の 現象		1	2		6	7		1			2	1
音楽からの 表現活動									1	3	3	3

動物・魚

1 うさぎ	74
2 くま	65
3 かえる	42
4 ぞう	36
5 うま	34
6 さかな	28
7 とり	24
8 ちょうちょう	21
9 りす	19
10 かに	11
あり	11
12 へび	9
13 かたつむり	8
海中の生きもの	7
15 はち・みつばち	6
おたまじゃくし	6
17 あひる	4
ねこ	4
にわとり	4
20 かめ	3
ライオン	3
ねずみ	3
さる・ゴリラ	3
乗物	
1 自動車	46
2 飛行機	30
3 汽車・電車	26
4 ジェット	
コースター	12
メリー	
ゴーランド	11
5 ロケット	10
コーヒーカップ	10
7 バス	5
8 自転車	2
ヘリコプター	2
自然界の現象	
1 風	9
2 雨	6
3 星	2
4 太陽・波・雷	1

たこ
いそぎん
ちゃく
くらげ
貝

4. 音や音楽以外に、子どものイメージを膨らませるものとして用いたものは何かについての回答が表4である。

これらの遊具や素材を自由に触れ、使い方を試す機会を表現活動をする前に持たないと独創的な表現活動に結びつかないのではないかと思う。

表4 活動に用いたもの

	3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実		3 幼 実		4 幼 実		5 幼 実	
ある	32	28	19	24	16	27	28	28	21	20	17	15
ない	22	15	23	14	32	18	21	12	26	22	22	18

フープ・ボンボン・ボール
 新聞紙・ゴム紐・紐・布
 シーツ・スカーフ・衣装
 タンバリン・椅子・紙テープ

5. 表現活動における子どもの状態について学生が見たままを回答し、項目別に整理したものが表5である。

一番多かったのは、この音楽と動きによる表現活動が楽しく好きであるということだった。またこの幼児期、探求心が旺盛なためか新しい表現活動に対して好奇心一杯である。子どもたちの日常生活に直結したことを出発点とした表現活動や子どもの製作作品を用いたり、リクエストした表現活動には積極的にかかわる。表現が高まると表情にも現れ、息を潜めたり、声を出したり、身体各部分で表現する。

一方、動機づけのない表現活動ではとまどいを示したり、友達の模倣をしているようである。

椅子に座ったままで大人目からは表現活動に対して消極的に思われる子どももいて学生は対処に困ったようである。しかしながらイメージを暖めている時とも思われるので、無理に表現活動に誘って参加させるのではなく長い目で見守って欲しいと思う。

6. 最後にこの活動について学生の感想を項目別に整理したものが表6である。

表現活動の誘導法についての感想と子どもの表現活動に対する感想の2つに分けられる。

表現活動の誘導法については、その内容に子どもが心をゆさぶられるかどうかの影響する。心を動かしたもの・心を動かさない傾向にあったものを把握し、今後の誘導法の方向づけになるとよいだろう。

子どもの表現活動については、子どもから出てきた表現は他の子どもが模倣し易いことや表6に見られる三歳児と五歳児との関係に注目したい。音楽と動きによる表現活動は一人一人の子どもと同じ場にいる他の子どもと保育者とのトライアングルの関係が成り立つであろう。一斉保育の場合、保育者と子どもたちという関係で活動を考えがちであったように思う。しかしながら、一人一人の子どもと同じ場にいる他の子どもとのかかわりが相互に刺激してこの表現活動をさらに高めあうと思うのである。

すなわち、一人一人の子どもと同じ場にいる他の子どもと保育者とのトライアングルの関係が豊かな感性や表現を育む原点ではないだろうか。一人一人の子どもと同じ場にいる他の子どもが同じ発想で、同じ表現の発現ではもちろん豊かな感性や表現が育たない。子どもがまずこの表現活動の主体である。保育者は子どもの音楽と動きによる表現活動の「種まく人」の存在ではなかろうか。

表5

子どもの反応	[前期]			[後期]			[前期]			[後期]		
	3 幼	4 実	5 実	3 幼	4 実	5 実	3 幼	4 実	5 実	3 幼	4 実	5 実
子どもの反応												
表現活動が楽しそうである。好きである。	22	9	11	12	27	13	7	3	14	11	8	7
指示されたものになりきって表現する。注1	12	9	6	3	8	9	7	5	5	7	6	4
新しい表現に真剣で好奇心一杯である。	4		10	1	1		2		1			
様々な表現をする。注2	2	4	2	7	3	10	3	2	3	2	1	3
見たり聞いたりしたことは表現が豊かである。	2	2	6		2	1	2			1		
保育者の模倣活動を喜ぶ。	5	1	1		2			1	1			
合図で反応(シーツに隠れる・ポーズ)を喜ぶ。	1	1	2			2		1				
子どものリクエストした表現活動は積極的である	1	1	5	1	3	2				1		
表現が高まると表情に現れ、息を潜め・声も出す		1	7	2	5	2	1		3	2	1	3
大小の表現がすばやくできる。		1	1	1								1
制作作品・遊具・用具などを用いると表現活動が積極的になる注3	4	2	2	4		1	1	1	2	1	1	1
身体全体を用いて、ボールを生かして表現する。					1	1	1	1				
友達に表現に興味を示す。				1	1	1						
活動的な表現を喜ぶ。				1								
興味を持つと積極的に表現活動をする。				1				2			1	
どの子も似たような表現をする。注4	6	3	2	3	3							
椅子に座ったままやただうろろする子がいる。	6	3	1	5	1	1	1	1	2	1		1
保育者の側を離れない。表現する場所が固まる。	1	1			1	1						
次の表現になかなか移れない。						1		1				
ふざける子どもがいる。		3	1	2	1	3				2	3	1
表現活動を恥ずかしがる。			1									1
友達と一緒に表現活動をする。												
足を用いる表現ばかりと子どもから指摘される。												
										2	1	

注1 飛行機、ロケット、ことり、ぞう、たぬき、くま、ごきぶり、へび、うさぎ、かたつむり、たこ、かに、たんぽぽ、あじさい、注2 うま、くま、動物、木、自動車、ポーズ、注3 ボンボン、フープ、ゴムひも、ボール、魔法の杖、棒にリボンをつけたもの、ぬいぐるみ、注4 うさぎ、うま、ぞう、ポートこぎ。

子どもの反応	〔前期〕					〔後期〕				
	3 幼	4 実	5 実	3 幼	4 実	5 実	3 幼	4 実	5 実	3 幼
子どもの反応										
「スキップ」が好きである。		2	3	1						1
「スキップ」にターンや後ろスキップを加える。									1	
「スキップ」が難しそうである。また寝かない。 (新入園児)		3	2	3					1	
ほとんどの子どもが「スキップ」できる。			1	1					1	
自動車の表現を喜ぶ。	注5	2	1	2	1					
眠る表現は身体を小さくし、床に横になる。	1									
シーソーの表現を喜ぶ。										1
ボートこぎの表現を喜ぶ。		1								
「すべる」をし易いようにブロックを脱ぐ。							1			1
床を「這う」が好きである。										1
動物の模倣表現をすることが好きである。	1	3	1	3	2	1				1
ワニは床を這う。						1				
にわとり表現が難しそうである。			1							
海の生きものの表現が難しそうである。										1
おたまじゃくしはお尻をふりふり床を這う。										1
うなぎ・へびは同じ表現である。										1
「なべなべそこぬけ」が難しそうである。				1						
お尻を振ることを喜ぶ。	1									
あやつり人形の表現が難しそうである。			1							
ボールやつく人になることが難しそうである。			1							
飛行機の表現を喜ぶ。						1				
飛行機は手を横に広げる。		1								
ロケット両手を頭の上で合わせ走る。									1	1
汽車は友達と繋がりて走る。									1	

注5 エンジンがかかる。ガソリンを入れる。ブレーキをかける。

注6 テンブルブロック、大太鼓。

表 6

実習生の感想	〔前期〕			〔後期〕					
	3 幼 実	4 幼 実	5 幼 実	3 幼 実	4 幼 実	5 幼 実	3 幼 実	4 幼 実	5 幼 実
実習生の感想									
活動に興味を示さない子に無理に誘っていない。									
グループに分かれたと友達の実現が見れてよい。子どもから出てきた表現は子どもが模倣しやすい。									
子どもが楽しそうだと指導者も嬉しくなる。									
3歳児と5歳児合同で行うと5歳児が世話する。									
3歳児と5歳児合同で行うと3歳児が刺激される									
友達の実現をする。									
友達の応援をする子どももいる。									
表現活動に相応しい音楽である。									
表現活動に相応しくない音楽である。									
楽器を有意義に用いている。									
音楽を聞きイメーを膨らませることも必要だ。									
臨機応変にピアノが引けると活動が活発になる。									
きれいなイメージの音楽に男の子は参加しない。									
刺激を極端にすると一層興味を引く。									
ピアノを弾くタイミングが難しい。									
擬態語や録音で動物の模倣表現が豊かになる。									
スペースを生かしたプログラムである。人数によっは工夫も必要である。									
スペースが狭い。									
フープも様々な使い方ができる。									
布を用いるとイメージが広がる。									
女の子はスクリーンを生かして表現する。									
注9 ピアノ、テンブルブロック。									

注7 活動時間・内容。 注8 バレーをしている子。

実習生の感想	【前期】			【後期】		
	3 幼 実	4 幼 実	5 幼 実	3 幼 実	4 幼 実	5 幼 実
活動に興味を示さない子に無理に誘っていない。					1	
グループに分かれると友達の実現が見れてよい。 子どもから出てきた表現は子どもが模倣し易い。			1		1	
子どもが楽しそうだと指導者も嬉しくなる。						1
3歳児と5歳児合同で行うと5歳児が世話する。						1
3歳児と5歳児合同で行うと3歳児が刺激される			1			
友達の実現をする。				1		1
友達の実現をする子どももいる。				1		
表現活動に相応しい音楽である。		1				
表現活動に相応しくない音楽である。		1				
楽器を有意義に用いている。 注9	1	4	1	1		
音楽を聞きイメージを膨らませることも必要だ。			2			
臨機応変にピアノが引けると活動が活発になる。					1	
きれいなイメージの音楽に男の子は参加しない。					1	
刺激を極端にすると一層興味を引く。						1
ピアノを弾くタイミングが難しい。	1	6				1
擬態語や録音で動物の実現表現が豊かになる。	2	1	2			
スペースを生かしたプログラムである。人数によ っては工夫も必要である。	1	1	2	4		1
スペースが狭い。						1
フープも様々な使い方ができる。	1					
布を用いるとイメージが広がる。				1		
女の子はスカートを生かして表現する。					1	

注9 ピアノ、テンブルブロック。

注9 ピアノ、テンブルブロック。

おわりに

幼児と音楽について長年研究しているアロノフ (F. W. Aronoff^{註3}) は「身体活動を使っての音楽教育は子どもの認識力を高め、主体的にかかわらせ、それにともなう情緒も養うゆえに、音楽的身体活動が子どもの知能、情緒の相互発達に大きく貢献する」と述べている。

音楽と動きによる表現活動は「経験」しなければ理解できないことが多くあるが小学校から高等学校までにあまり行われていない。そこでまず「身体で表現することは恥ずかしい」という意識を学生から排除することから意識改革しなければならない。

表現活動を誘発するものとしてピアノが圧倒的に使用されている。しかしながらピアノは技術の差が明確に表われる楽器でもある。教育実習中、ピアノに集中しすぎてせっかくの子どもたちの様々な表現を見のがすケースも見られた。授業で行っている「もっと自由にピアノを弾こう」という点が生かされていないことは残念である。

音楽と動きによる表現活動は一人一人の子どもと同じ場にいる他の子どもと保育者とのトライアングルの関係が重要であると思われる。一人一人の子どもが心を動かす出来事や音楽に心をゆさぶられる→同じ場にいる他の子どもとのかかわりが相互に刺激してこの表現活動をさらに高めあう→保育者は環境を作り、授助する。言い換えると保育者は子どもの音楽と動きによる表現活動の「種まく人」の存在ではなかろうか。

附 記

今回、実習幼稚園である北陸学院短期大学付属幼稚園並びに金沢市内キリスト教幼稚園の先生方には学生を通して貴重な資料を得させていただき感謝しております。また、調査に協力してくれた学生の皆さんにも合わせて感謝しております。

参 考 文 献

- ・北陸学院100年史「北陸学院100年史」北陸学院 1990年編集委員会
- ・文部省 「幼稚園教育指導書増補版」フレーベル館 1989年
- ・板野 平「音楽反応の指導法」国立音楽大学 1973年
- ・吉田裕昭 アメリカのリトミック教育
ダルクローズ音楽教育研究 1987年 12号 p.p.118~127
- ・浅香 淳「標準音楽辞典」音楽之友社 1966年
- ・C. R. Hoffer・M. L. Hoffer “Teaching Music
in The Elementary Classroom”
Harcourt Brace Jovanovich, Inc.1982年
- ・L. R. Land・M. A. Vaughan “Music in Today’s Classroom
Creating, Listening, Performing”
Harcourt Brace Jovanovich, Inc.1973年

註

1. 松本恒敏・山本文茂 「創造的音楽学習の試み、この音でいいかな？」 音楽之友社 1986年
2. J. Paynter・P. Aston “Sound and Silence—Classroom Projects in Creative Music—” Cambridge University Press 1970年
共訳 山本文茂・坪能由紀子・橋都みどり「音楽の語るもの原点からの創造的学習」音楽之友社 1982年 p.75
3. F. W. Aronoff “Music and Young Childven” 1979年
訳 畑 玲子 「幼児と音楽」 音楽之友社 1990年 p.20

多保田 治 江

資料 1

乗 物

作曲 浅井直美



作曲 高窪まち子



魚

作曲 酒井美恵子



子どもの豊かな表現活動を求めて（１）

かもめ

作曲 奥村 薫子



宇宙

作曲 川上 敦子



作曲 石川 光栄

